

米の戸別所得補償制度は真に有効なのか／鳥獣被害対策の強化を

公明党津山市議団 原 行則



質問 ↓政府は米一俵の生産コストを何円と積算しているのか。

答弁 ↓十アール当たりのコストを約八万円としており、一俵換算すると九千四百円。

質問 ↓今年の米価の下落、過剰米の状況

をどのように認識しているか。

答弁 ↓過剰米は平成二十一年、二十二年産で四十数万トンもある。需給の均衡と生産の安定が重要。現状の日本農業は危機的状況であると憂慮している。

質問 ↓下落分の補償は農家の収量をどのように把握して金額を決めるのか。

答弁 ↓収量は全国平均十アール当たり五百三十キログラムを一律で算出する。

質問 ↓年々、鳥獣被害は増えており、特に捕獲数は平成十七年と比べ猪は一・三倍、鹿は四・三倍、ヌートリアは二・五倍。駆除班、防護柵等の助成を増額しては。

答弁 ↓新年度予算に向け、検討する。

里山の再生は

市民と歩む会 河本英敏



質問 ↓近年、県北にナラ枯菌の被害が見られ、専門家の話では、被害は全国二十二府県で深刻、駆除が必要との新聞記事があった。聞くところによると、この原因は、カシノナガキク

イムシが運ぶ菌の災いで、感染すると急激に枯れるもの。日本産のブナ科の全ての属で枯死が見られ、ナラなどの広葉樹の大敵であり、きのこ栽培などへの影響が心配されている。樹齢十五〜二十年の木には、発生は少ないと言われていて、この周期で利用することが被害から山を守り、里山の再生、CO2の削減、獣害の防止、生物の多様性を守ることにつながるといふ考えはできないか。

答弁 ↓来年見直す「森林整備計画」で里山整備方針を立て平成二十四年度からの「第四次総合計画後期実施計画」で、可能なものから取り組みたい。

将来の津山市像、明確な夢は何か

津山新星会議 竹内邦彦



質問 ↓市長が描く将来の津山市像について、明確な夢と具体的な展望は。

答弁 ↓「いつの日か天守の再建を」との思いにも触れ、城下町津山の魅力を活かした観光客百万人都市の実現と

いう将来像を頭の中に描いている。その前に日々の市民生活を守ること重要だと考える。

質問 ↓普通財産の売却見込みは。

答弁 ↓久米地域の長尾邸跡の公売を実施するも、現在のところ購入希望者はなく、厳しい。

質問 ↓企業誘致が厳しいのはよく承知しているが、現況と見込みはどうか。

答弁 ↓現在、立地交渉を進めている案件もあるが、厳しい状況であるのは変わらない。今後は優遇措置の拡充等を踏まえて取り組んでいく。

農林業対策について

新風会 森岡和雄



質問 ↓人にもカルテがあるように、山にもカルテをつくる必要があるのでは。

答弁 ↓森林所有者の高齢化などに伴い、不在村地主が増加することも予想され、不在村地主への対策は施業

の団地化を進める上で早急に対応が必要な問題。施業の団地化、それに必要なカルテづくりは津山市の林業行政の中核をなすものと認識しており、課題の一つとして検討していきたい。

質問 ↓山林のカルテ整備による団地化は進は。

答弁 ↓森林施業の集約が図れる団地化は、林業の採算性向上のためにも最も重要。津山市では来年度から「津山市森林整備計画」の見直し作業に入るが、そのためには森林情報（山林カルテ）を整備し、施業団地化等の検討作業も必要になるため、この事業を進めていきたい。